



Index

協議会の活動紹介 ... P2

- ・普及推進タスクチームを発足
- ・卸・メーカーの導入企業数 8,000 社超える
- ・流通 BMS 普及推進セミナーを 2 月に開催
- ・リテールテックセミナーのご案内
- ・JACDS ブロック総会を開催
- ・JILS セミナーを開催
- ・生鮮取引電子化セミナーを東京、大阪で開催

シリーズ 業界のキーマンに聞く ... P10

日本 OTC 医薬品協会の友田 光泰氏（エスエス製薬株）にお聞きしました。

流通 BMS 協議会会員 ... P12

社名公開企業 ... P15

ロゴマーク使用許諾製品 ... P15

流通 BMS 入門／導入講座 ... P16

入門講座（バーコード、電子タグ） ... P17

編集後記 ...P18



「地方」と「中小企業」を対象に普及策を検討 普及推進タスクチームを発足

第2回普及推進部会を11月25日午後東京・築地のJJK会館で開催し、今後の重点普及施策として「地方」と「中小企業」をキーワードにタスクチームでその具体化を検討することを決定した。

今年度の普及推進活動では、普及の鍵を握る小売業のEDIをサポートしている事業者との連携を柱のひとつに据えているが、その中でも地方のIT企業との連携を深めていく。その具体策の検討がタスクチームの目的のひとつになっている。

量的な拡大と並行して質的な充実を図るために、新たに流通BMS導入講座を開始した。導入講座では、小売業の流通BMS導入をサポートしているIT企業を主対象に、導入のポイントと標準遵守の重要性を解説することに主眼を置いている。

これらの活動の内容は2月に大阪、名古屋、東京で開催する普及推進セミナーで紹介し、NTTのPSTNマイグレーション^{注)}の動きと相まって流通BMSへの移行の流れを確実なものにしていきたいと考えている。

注)PSTNはPublic Switched Telephone Networksの略で、一般の加入電話回線網のこと。NTTでは2020年から5年程度かけてIP網へのマイグレーション(移行)を計画している。

第1回タスクチームを開催

昨年12月上旬に普及推進部会メンバーに対してタスクチームへの参加を募った結果、下記の支援会員8社が参加して1月26日に第1回会合を開催した。

(株)インターコム、(株)インテック、(株)HBA、SCSK(株)、キヤノンITソリューションズ(株)、(株)サイバーリンクス、(株)データ・アプリケーション、(株)リテイルサイエンス

会合では、地方への普及を促進するためのセミナー開催と、中小企業向けの導入障壁低減のためのガイドやパンフレットの作成を検討した。

セミナーの開催については、地域別導入状況データを基に、どのような層に働きかけるのか。また、集客方法について活発な議論がなされた。

中小企業向け資料については、具体的な手順を示したガイドだけでなく、流通BMS導入によって業務がどう変わるのか、直感的な理解を助けるパンフレットが、普及拡大に向けて有効ではないかと検討された。

これらの議論を踏まえて、第2回会合を2月に予定している。

タスクチーム 検討内容

	地方セミナー	中小企業向け資料
目的	<ul style="list-style-type: none"> 標準化の意義の啓発 PSTNマイグレーションなど最新情報の伝達 	<ul style="list-style-type: none"> 導入手順・ポイントの伝達 導入後の業務イメージを掲示
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 地方セミナーの開催 	<ul style="list-style-type: none"> 導入手順・ポイントを示したガイドの作成 導入後の直感的イメージを呼び起こすパンフレットの作成
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 対象 集客方法 	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツ



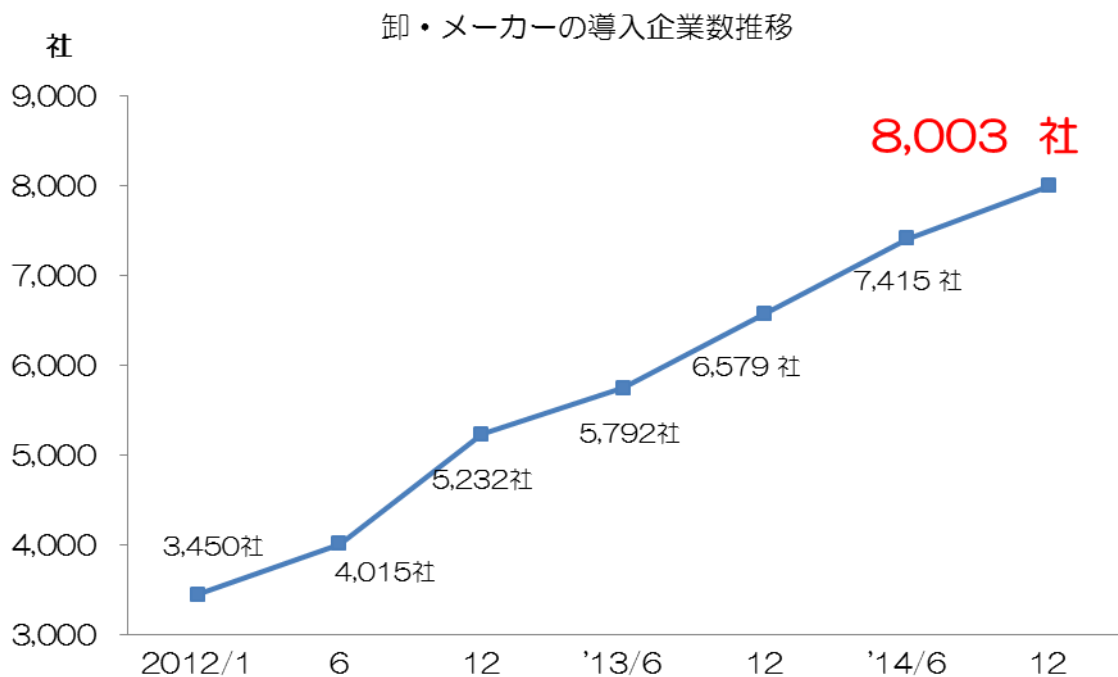
卸・メーカーの導入企業数 8,000 社超える 12月1日時点の推計 この半年間で約 600 社増加

本協議会では、半年毎に卸・メーカーの導入企業数調査を行い、昨年6月1日時点の結果を「流通 BMS を導入している卸・メーカーは7,400 社以上と推測される」という内容で発表してきた。

半年後の昨年12月1日時点の調査結果では8,000 社以上となり、この半年間で約600 社増加している。

対応済み卸・メーカー企業が多くなり、800 社前後を数えた前2回の伸び数に比べると増え方は鈍化しているが、地方中堅小売業の導入も進んでおり、依然として堅調な動きを示している。

次回の第8回調査は今年の6月1日時点で行う。



調査方法の詳細は下記 URL を参照。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/release20141226.pdf>



流通 BMS 普及推進セミナーを 2 月に開催 NTT の IP 網への移行など最新状況を報告

本協議会では今年の2月に大阪、名古屋、東京で「流通 BMS 普及推進セミナー」を開催する。

(受講料無料)

通信インフラが公衆回線網から IP 網へ移行するタイミングが間近に迫っており、それに伴ってレガシー手順 (JCA 手順や全銀手順、全銀 TCP/IP 手順) を利用し続けることが事業継続上のリスクとなっている。本セミナーでは、その移行スケジュールなどについて東西の NTT から担当者を講師に招いて説明する。

また、開催各都市を拠点とする小売業から導入事例を紹介してもらう。

さらに、昨年 10 月に開催したメッセージメンテナンス部会で承認された CR (チェンジリクエスト) 2 件を提案団体の日本加工食品卸協会から報告してもらう。

その他、事務局から生鮮分野への普及推進強化や金融業界との連携といった最新の活動状況を報告する。

現在、協議会のホームページで参加申込みを受け付けている。

2014 年度 流通 BMS 普及推進セミナー

大阪

名古屋

東京



開催日

2015年

2/13 (金)

2/20 (金)

2/27 (金)

プログラム (予定)

Session 1	14:00 14:10	協議会活動報告	流通 BMS 協議会 事務局
Session 2	14:10 14:40	CR の結果報告	日本加工食品卸協会
Session 3	14:50 15:50	流通 BMS 事例	流通 BMS 導入小売業
Session 4	16:00 16:30	IP 網への移行計画	NTT 東日本/NTT 西日本

RTJで製品・サービス展示とセミナーを開催 リテールテック JAPAN2015

本協議会は流通 BMS のさらなる普及拡大を目標に、日本経済新聞社主催の総合展「リテールテック JAPAN」（3月3日（火）～6日（金））でブース出展、およびセミナーを開催する。

会場内に“流通 BMS ソリューションゾーン&ステージ”というタイトルでブースを設け、流通 BMS に対応したパッケージソリューション、ASP/SaaS ソリューションなど 10 社が展示を行う。（会場・出展企業は下図参照）

また、ブース内にセミナーステージを設置し、毎日各社のプレゼンテーションを実施する。こちらも単なる宣伝ではなく、実際の導入をイメージできるような内容を予定している。詳しくは下記 URL から。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/expo2015.html>

2015. **3.3** (火) ~ **6** 日 (金)

※セミナー“流通システム標準化の最新動向”は 5日（木）のみ開催

東京国際展示場【東京ビッグサイト】東ホール
午前 10 時～午後 5 時（最終日のみ午後 4 時 30 分）

さらに、3月5日（木）には流通システム開発センターが開催するセミナー“流通システム標準化の最新動向”内で、小売業 2 社（コストコホールセールジャパン、Olympic グループ）の流通 BMS 導入事例紹介を行う。

セミナーの参加申し込みは下記 URL から。

https://messe.nikkei.co.jp/rt/seminar/#seminar_129963

■流通 BMS ソリューションゾーン&ステージ会場図



出展企業（50音順）

(株) インターコム
(株) インテック
(株) システムベース
(株) データ・アプリケーション
日本情報通信(株)
(株) ビット・エイ
(株) ヘリオス/ (株) HBA
(株) リテールサイエンス/ キヤノンITソリューションズ (株)

会場アクセス

- りんかい線
「国際展示場」駅下車 徒歩約 7 分
- ゆりかもめ
「国際展示場正門」駅下車 徒歩約 3 分
- 無料シャトルバス
「東京駅丸の内北口」⇒約 30 分



JACDS ブロック総会で流通 BMS 説明

業界標準化推進委員会の報告として

日本チェーンドラッグストア協会（JACDS）では1月に各地区のブロック総会を開催、その中で流通 BMS 協議会から流通 BMS の普及推進について説明した。

ブロック総会は年2回開催され、協会の活動内容を各地域の正会員、賛助会員に報告するとともに、総会終了後に懇親会を開催して会員相互の親睦を図っている。

今回は、1/20 に九州ブロック（会場・福岡）、1/21 に西日本ブロック（大阪）、1/22 に中部ブロック（名古屋）の総会を開催、各地区のブロック長の挨拶、JACDS の関口会長や寺西名誉会長による概況報告、各委員会の委員長による個別活動報告、宗像事務総長による業界の現状と課題への対応報告が行われた。

流通 BMS については、業界標準化推進委員会の標準 EDI（流通 BMS）推進活動として報告した

もので、現在の普及状況や標準化の必要性について協議会事務局から各会場で十数分説明した。

合わせて、協会が作成している「業界標準導入プログラム」についても江黒委員長に代わって説明した。このプロジェクトは、流通 BMS の標準的な導入手順やコストについて分かり易い冊子にまとめ、会員に配付するもので、現在、導入済企業に聞き取り調査を行なっている。その結果を業界標準化推進委員会で検討し、システムベンダーに内容を確認した上で、3/13 に開催される JAPAN ドラッグストアショーのセミナーで発表することを目標にしている。

ブロック総会は 2/3 に東京で東日本ブロックを開催して終了する。

九州ブロック総会の会場風景



中部ブロック総会の会場風景





総合スーパー、食品スーパーの物流効率化事例を紹介

日本ロジスティクスシステム協会のテーマ別研究会で

本協議会では、流通 BMS の普及を拡大するため、正会員団体との連携を図っている。その一環として、公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）が主催した「第 84 回テーマ別研究会 流通 BMS による小売業の物流効率化—総合スーパー、食品スーパーの事例紹介—」に企画協力した。業種横断の物流業界団体との連携は初めてとなる。

研究会では、協議会から流通 BMS の概要と最新状況を紹介したのに続いて、(株)与野フードセンターの宗行利雄氏とユニー(株)の角田 吉隆氏から、流通 BMS を利用した物流効率化事例をご紹介いただいた。

有料のセミナーであるにも関わらず、参加人数は 32 名を数え、物流業界からも流通 BMS への注目度が高まっていることが伺えた。

以下、研究会の内容を紹介する。

【オープニングセッション】

事務局より、流通 BMS のねらいと効果、普及状況などについて説明した。また、物流業界に深く関係するテーマとして、検品レスの効果や SCM ラベルの標準化についての説明も行った。

【セッション①】

(株)与野フードセンター

商品部 物流担当 主任 宗行 利雄氏

流通 BMS 導入のきっかけは、生鮮センターの再構築だった。システム面のコスト低減を狙うとともに、NTT の通信網移行による JCA 手順の将来的廃止もあり、移行を決断した。

生鮮品の EDI 化には、不定貫などの生鮮特有の商品特性と、発注通りに納品されるとは限らないという不確定要素等、様々な問題があり、取引のシステム化は難しかった。また、物流業務においても多くのコストがかかっており、規格化・システム化・標準化が必要だった。

流通 BMS の導入前はデータと紙情報の照合作業の負荷が大きかった。特に生鮮品は他の商品と比べ欠品や産地の変更などが多く発生するため、欠品・修正報告書のパンチング作業が膨大になる。また、物品受領書の取引先別仕分け作業など、非効率な点が多かった。

流通 BMS 導入後は事前に出荷案内データを受け取れるため、パンチング作業は差異発生時のみになり、担当者の人件費を大幅に圧縮することができた。データの精度も向上し、庫内作業も軽減された。

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 第84回テーマ別研究会	
14:30~15:00	【オープニングセッション】 「流通BMSについて」 流通BMS協議会 事務局
15:10~15:50	【セッション①】 「小売の流通BMSと物流効率化の取り組み」 (株)与野フードセンター 商品部 物流担当 主任 宗行 利雄氏
16:05~16:50	【セッション②】 「小売の流通BMSと物流改革の取り組み」(仮) ユニー(株) 執行役員 IT物流本部 本部長 角田 吉隆氏

また、出荷開始型モデルの採用によって紙媒体の伝票が無くなり、庫内のリスト仕分け作業や「誤配率」等の管理指標の作成作業の負担がきわめて軽くなった。但し、出荷開始型モデルは効果が大きい反面、原価などは取引先が入力するため、一定のリスクが伴う。従ってリスクの把握、共有と、チェック体制が重要になる。

コストや作業負担軽減以外のメリットとしては、通信時間の短縮や、直接取引の増、データの精度向上による誤配率の減、データ項目の利用による作業の単純化などがあげられる。

流通 BMS への今後の期待としては、豊富なデータ項目を利用したトレーサビリティ情報の活用や、体積情報や温度区分を利用した配送の効率化・付加価値化がある。現状、荷主ごとのシステムを導入している物流業者でも、流通 BMS でデータをやり取りしていければ、さらに効果が高まると期待している。



【セッション②】

ユニー(株)

執行役員 | T 物流本部 本部長 角田 吉隆氏

グループとして多くの業態を運営しているが、物流センターを統合することで効率化を高めたかった。複数の本部からの統合だったため、再構築には標準化が必要であり、流通 BMS の検討段階から、システムの再設計に着手した。

社内システムをすべて流通 BMS に対応させることによって、モールや GMS など各業態に依存しない発注システムを構築し、リアルタイムで本部に情報を集約することができた。それにより、高速化しただけでなく、便ごとに発注が出来るようになり、完全な伝票レスも実現した。

また、流通 BMS の速度、プッシュ伝送を利用し、リアルタイムに近い形で情報をやり取りしている。これにより、時間的なタイトなチルド品・生鮮品をタイムリーに処理できるようになった。

物流に関しては SCM ラベルを採用したが、業態ごとにカテゴリ数を分けるなど、センターの統合に大きな役割を果たした。また、原価低減を目的に菓子センターを TC 化した。納期の遅れが懸念されたが、受発注の高速化や、標準ラベルの採用による分別の効率化によって作業時間も短くなったため実現した。

また、アパレル品などの輸入について、事前に海外の取引先から発送連絡を貰うことで国内の仕分け作業を軽減し、港から TC に直接納品を受けることが可能になった。他に、他ベンダー品との混載納品に対応した。いずれも、標準データがしっかりしているから実現できたことだ。

今後については、流通 BMS を導入し在庫管理の精度が向上したこともあり、自動発注の拡充を考えている。また、グループの規模を生かしたオムニチャネルの実現を視野に入れている。こちらはデータ項目が共通であることで物流センターの統合が進んだことが要素として大きい。

SCM ラベルの標準化から受けるメリットは非常に大きい。垂直・水平方向の協業化や運営コストの削減により、部分最適から全体最適へと向かい、業界全体の発展につながる。

システムの投資は最初は小さく、徐々に広げていくのが良い。費用に見合った効果を回収し続けられれば、投資は続けられる。



生鮮取引電子化セミナーを3月に東京、大阪で開催 実証事業の報告と流通BMS導入の手引き改訂について

生鮮取引電子化推進協議会では昨年度から、農林水産省の補助を受けて、生鮮食品取引に流通BMSの導入を促進する活動を行なっている。

今年度は、昨年度作成した「生鮮食品取引における流通BMS導入の手引き」を普及するためのセミナーを、7月24日の東京開催を皮切りに、札幌、仙台、名古屋、大阪、福岡、岡山、金沢と全国8都市で開催した。

セミナーでは、手引きの説明の他、流通BMS協議会の支援会員に出展を呼びかけて各会場で生鮮EDI関係のソリューション展示を行なった。また、各会場では小売業の生鮮における流通BMS導入事例を紹介した。

流通システム開発センターは同協議会の会員として事業の共同事務局を務めている。昨年度は流通BMS協議会が「手引き」の作成に協力したが、今年度も引き続きセミナーの運営と手引きの改訂で協力している。

農水省事業ではさらに、水産物相場品の取引における流通BMS導入実証を行なっているが、これらの事業成果を報告する「生鮮取引電子化セミナー」を3月12日（木）に大阪で、3月20日（金）に東京で開催する。

<申込みは下記URLより>

<http://www.ofsi.or.jp/kyougikai/seminar/BMS-seminar.htm>

昨年開催した生鮮EDIセミナーの小売講師企業

開催日	開催都市	内容
2014/7/24	東京	株式会社ヤオコー 営業企画部 情報システム担当部長 神藤 信弘 氏
2014/9/19	仙台	※ 日本スーパーマーケット協会 情報システム委員会 委員長
2014/8/29	札幌	マックスバリュ北海道株式会社 経営管理本部 情報システム部長 杉田 雅彦 氏
2014/9/26	名古屋	ユニー(株) 執行役員 IT 物流本部本部長 角田 吉隆 氏
2014/10/10	大阪	イズミヤ株式会社 総合企画室 情報システム担当 マネジャー 笠井 元 氏
2014/10/24	福岡	西鉄ストア 情報システム部 顧問 高橋 雄一 氏
2014/11/21	岡山	株式会社天満屋ストア 取締役管理本部長 加島 誠司 氏
2014/11/28	金沢	アルビス株式会社 総合企画室長 若森 浩司 氏

昨年開催した生鮮EDIセミナー出展IT企業

イーサポートリンク(株)、SCSK(株)、(株)サイバーリンクス、(株)ニュートラル、富士通エフ・アイ・ピー(株)、ユーザックシステム(株)、(株)リテイルコム、東芝テック(株)、(株)日立システムズ^{*1}、(株)大塚商会^{*2}、(株)リンネット^{*3}

※1 名古屋会場のみ出展 ※2 大阪会場のみ出展 ※3 福岡会場のみ出展

「生鮮取引電子化セミナー」プログラム 3/12 大阪、3/20 東京

時間	内容
14:00~14:10	主催者挨拶
14:10~14:50	生鮮食品取引における流通BMSの導入について 講師：流通BMS協議会 事務局
14:50~15:00	質疑応答
15:00~15:50	水産物取引における流通BMS導入実証事業の成果報告 講師：株式会社サイバーリンクス 流通クラウドビジネス事業部 SCM推進部 部長 三浦 明 氏
15:50~16:00	質疑応答



第20回 OTC 医薬品業界

一企業の立場からだけでなく 業界全体を考えて推進すべき

日本 OTC 医薬品協会

友田 光泰 氏

ともだ みつやす

(エスエス製薬株) 執行役員

トレード&ショッパーマーケティング本部

本部長)



日本 OTC 医薬品協会は 1985 年に設立された一般用医薬品メーカー 79 社が加盟する団体である。セルフメディケーションの考え方を推進するなどの幅広い活動を通じて、国民の健康的な生活に貢献している。

OTC 医薬品メーカーの中で小売業と直接取引している直販メーカーは流通 BMS への対応が増えているが、中でも多くの小売業と流通 BMS で接続しているのがエスエス製薬(株)である。今回は同社の友田光泰執行役員にお話を伺った。

—まず、標準化についてのお考えをお聞かせください。

友田 標準化は OTC 医薬品業界のみならず、すべての業界において重要なことで、標準化の普及が進まないと、サプライチェーンに余計なコストがかかってしまいます。インフラは標準化するものであって、差別化や競争優位性を競うものではないと考えています。一企業の立場からだけでなく、業界全体を考えれば流通 BMS という標準化を推進していくべきだと思います。

—御社での流通 BMS の導入状況や効果を教えてください。

友田 弊社では EDI で取引しているお取引先様が現在 680 社以上ありますが、流通 BMS で接続し

ているのは 15 社に過ぎません。そういう意味では、流通 BMS を導入してはいますが、便益はまだ十分には享受できているとは言えません。

データ交換の速度向上により業務時間が短縮するというメリットは理解していますが、現在のところは受注がメインでデータ量は限られており、従来からの体制で十分対応できています。今後は取引メッセージ量が増加し、JCA 手順や全銀手順では対応が不十分になるのでメリットが得られるのではないかと考えています。

伝票レスに関しては、流通 BMS 導入以前の電子帳簿保存法の改正後に実現できているお取引先様がほとんどという状況です。

その他のメリットとしては、請求支払関係の EDI が出来ることで、バックオフィスの業務効率化が期待されます。メーカーとしても恩恵を受けられると思いますが、まだ整備しきれていないのが実情です。

冒頭申し上げましたように、一企業のメリット云々というよりも、業界として標準化を進めていくという点は賛成ですので、小売業様から流通 BMS の要請が多くなれば、と期待しております。

—御社は直販メーカーということで多くの小売業と直接取引をされているわけですが、その数はどの程度の規模になりますか？



友田 全国4万店のドラッグストア・薬局様との取引があり、大手のドラッグストアチェーンだけでも、EDIで個別に注文がくるグループ企業様も含めると600社以上になります。卸売業様も数十社とお取引させていただいております。

薬局などの単独店は、EOSなどはあまり使われていません。一部、地域VAN利用がありますが、電話・FAXでの注文が主です。電話・FAXの受注は受注センターで集中して受けております。

—小売業への物流も自社で手配されていると思いますが、課題としてはどのようなことがありますか？

友田 弊社の物流拠点から納品していますが、大手ドラッグストア様はほとんどが自社の物流センターを持っておられますので、そちらへの納品になります。センター運営を3PLに委託するケースが多く、流通BMSを導入しても3PLが対応していないと活用できないことがあります。したがって、今後は3PLでも流通BMSの活用が進むことが期待されます。

ただ、3PLも含めて考えると、流通BMSの標準項目だけでの運用は難しいと感じています。各小売様と3PLの間でどういう取り決めをしていて、どういうデータ領域を使っていくのか、現状では統一されていないと思いますので、今後はそういう部分を考えていく必要があるのではないかと考えています。

—協議会でも物流との連携を深めています。日本ロジスティクスシステム協会が流通BMSについてのセミナーを今年の1月に開催します。

友田 是非、協議会様から積極的に、そのような活動を進めて欲しいと思います。

—いま、流通BMSを普及する上での課題をひとつ上げられましたが、他にありますか？

友田 小売業様の立場で考えた時に、導入コストの問題があるのではないのでしょうか。受発注だけでなく取引をトータルでEDIにしないとメリットが出ないのではないかと我々は考えています。しかし、トータルEDIを実現するためには、スキャン検品等々の仕組みの導入など、設備投資が必要になります。

トータルEDIを活用して、入荷計上から経理処理までを総合的にシステム処理すると、業務プロセスも含めたシステム再構築など大きな投資が必要になります。

特に、決済においては業界の商慣習として、さまざまな名目の控除項目が相殺されて振り込まれることがあります。締め日と計算の基準日が企業によって異なるため請求の締切と時期が合わず、計算が煩雑になっています。そうした処理をEDIでやり取りし、買掛の管理も出来るようになるとメリットは大きくなると思われます。

—最後にドラッグストア業界向けのメッセージがありましたらお願いします。

友田 ドラッグストアは食品や日雑など商材がどんどん広がっています。流通BMSは業種を超えた標準であり、各業界の卸売業は既に対応しています。ですので、小売業様のビジネスの広がりに対応できることが流通BMSを採用するメリットの一つだと考えられます。

流通BMSは標準仕様であり、対応している企業の数が増えれば各企業が受けるメリットも大きくなります。決済までトータルにEDIで処理できれば、業務効率化の効果はさらに伸びると思います。

(聞き手：坂本尚登、まとめ：根岸大介)



正会員

(2014年10月17日現在、49団体)

オール日本スーパーマーケット協会	日本OTC医薬品協会
(一財)家電製品協会	(一社)日本加工食品卸協会
酒類加工食品企業間情報システム研究会 (F研)	(一社)日本玩具協会
情報志向型卸売業研究会 (卸研)	日本化粧品工業連合会
食肉流通標準化システム協議会	(一社)日本出版インフラセンター
(一財)食品産業センター	日本スーパーマーケット協会
(公財)食品流通構造改善促進機構	(一社)日本スポーツ用品工業協会
(一社)新日本スーパーマーケット協会	日本生活協同組合連合会
(一財)生活用品振興センター	日本石鹸洗剤工業会
全国卸売酒販組合中央会	(一社)日本専門店協会
全国菓子卸商業組合連合会	日本チェーンストア協会
全国化粧品日用品卸連合会	日本チェーンドラッグストア協会
(一社)全国水産卸協会	(一社)日本ドゥ・イット・ユアセルフ協会
全国青果卸売協同組合連合会	日本歯磨工業会
(一社)全国中央市場青果卸売協会	日本ハム・ソーセージ工業協同組合
(公社)全日本医薬品登録販売者協会	(一社)日本パン工業会
全日本菓子協会	日本百貨店協会
全日本履物団体協議会	(一社)日本フードサービス協会
全日本婦人子供服工業組合連合会	(一社)日本物流団体連合会
(一社)全日本文具協会	日本文紙事務器卸団体連合会
(一社)大日本水産会	(一社)日本ボランタリーチェーン協会
(一社)日本アパレル・ファッション産業協会	(一社)日本レコード協会
日本アパレル物流連合会	(公社)日本ロジスティクスシステム協会
(一社)日本医薬品卸売業連合会 大衆薬卸協議会	協同組合 ハウネット
(一社)日本衛生材料工業連合会	

支援会員

(2015年1月5日現在、187社)

(株)アール	アトラスシステム(株)
(株)アイ・シー・エス	(株)アルケミックス
(株)アイシーエス	(株)イークラフトマン
(株)アイシーエヌシステム	イーサポートリンク(株)
(株)アイティフォー	(株)イーネット
(株)ITビジョナリー	eBASE(株)
(株)アイネス	イー・マネージ・コンサルティング協同組合
(株)アイネット	(株)イシダ
(株)アグリコミュニケーションズ	伊藤忠テクノソリューションズ(株)
アクロスソリューションズ(株)	(株)インターコム
(株)あじよ	(株)インテージ
(株)アスコット	(株)インテック
(株)アットマーク	(株)インフォマート



(株)インフォメーションプロセッシングリサーチ
 ヴィンクス(株)
 ウェブスペース(株)
 エイジテック・アンド・ブレインズ(株)
 (株)HBA
 (株)エクサス
 エス・イー・エス(株)
 (株)エス・エフ・アイ
 SCSK(株)
 (株)SJC
 (株)S-Parts
 エス・ビー・システムズ(株)
 NEC エンベデッドプロダクツ(株)
 (株)NEC情報システムズ
 NECネクソソリューションズ(株)
 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)
 エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)
 (株)エヌ・ティ・ティ・データ
 (株)NTTデータNCB
 (株)NTTデータ スミス
 大阪市中央卸売市場
 大阪商工会議所
 (株)大塚商会
 (株)岡山情報処理センター
 沖縄流通VAN(株)
 オフィスフナヤマ
 オリパスシステムズ(株)
 カストプラス(株)
 (株)ガルフネット
 キヤノンITソリューションズ(株)
 (株)京信システムサービス
 (株)クライム
 クラウドランド(株)
 グロースエクスパートナーズ(株)
 (株)ケイ・コム
 けいしんシステムリサーチ(株)
 K・ビジネスサポート(株)
 コアネットインタナショナル(株)
 小坂ITコーディネータ事務所
 小林クリエイイト(株)
 (株)コムアソート
 (株)サイバーリンクス
 (株)佐賀電算センター
 (株)さくらケーシーエス
 (株)サトー
 サンケーバイナリィ(株)

(株)サンレックス
 (株)シイエスシー
 GMOグローバルサイン(株)
 シーガルサイエンティフィックアジアパシフィック(株)日本支社
 SEEBURGER Japan(株)
 (株)ジェイ・エス・エス
 (株)JSOL
 JBアドバンスト・テクノロジー(株)
 (株)システムベース
 (株)シスラボ
 (株)シマンテック
 シャープビジネスソリューション(株)
 (株)ジャパン・インフォレックス
 SOOP(株)
 (株)スコープ
 住友セメントシステム開発(株)
 セイコーソリューションズ(株)
 (株)セゾン情報システムズ
 創玄塾
 大興電子通信(株)
 (株)大洋システムテクノロジー
 (株)タドラー
 TIS(株)
 (株)DTS
 (株)TKC
 (株)データ・アプリケーション
 テクトランシステム
 (株)デジタルコンセプト
 (株)デジタルデザイン
 デジタルトランスコミュニケーションズ(株)
 (株)テスク
 鉄道情報システム(株)
 (株)寺岡システム
 (株)寺岡精工
 (株)デンソーウェーブ
 (株)TOKAI コミュニケーションズ
 東京システムハウス(株)
 (株)東計電算
 東芝情報機器(株)
 東芝テック(株)
 (株)東新システム
 東北インフォメーション・システムズ(株)
 (株)トータルシステムデザイン
 トップラン・フォームズ(株)
 (株)トライ
 (株)AAA システム



- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ナスキー(株) | 富士ゼロックスシステムサービス(株) |
| (株)ナブアシスト | 富士通(株) |
| 西日本オフィスメーション(株) | 富士通エフ・アイ・ピー(株) |
| 日経メディアマーケティング(株) | (株)富士通システムズ・イースト |
| (株)ニッセイコム | (株)富士通システムズ・ウエスト |
| 日本アドバンストリーダーズソフトウェア(株) | (株)富士通総研 |
| 日本経済新聞社 | (株)富士通マーケティング |
| 日本事務器(株) | フューチャーアーキテクト(株) |
| 日本情報通信(株) | (株)プラス |
| 日本電気(株) | (株)プラネット |
| 日本ヒューレット・パッカード(株) | (株)フリーポート |
| 日本ユニシス(株) | (株)プレネットシステムズ |
| 日本ラッド(株) | ベストパートナー(株) |
| (株)ニュートラル | (株)ハリオス |
| ネオアクシス(株) | ポールスターロジスティクス(株) |
| (株)ネクステージコンサルティング | 北陸コンピュータ・サービス(株) |
| (株)ノーチラス・テクノロジーズ | ホンダロジコム(株) |
| (株)野村総合研究所 | ミツイワ(株) |
| パナソニック システムネットワークス(株) | 三菱電機インフォメーションシステムズ(株) |
| パワー・ワークス(株) | (株)南日本情報処理センター |
| (株)日立システムズ | (株)Minor iソリューションズ |
| (株)日立製作所 | (株)ミンクス |
| (株)日立ソリューションズ・ビジネス | メルシーネット(株) |
| (株)ビット・エイ | (株)山清 (システム運用部) |
| (株)ひむか流通ネットワーク | ユーザーックシステム(株) |
| (株)ピレクト | (株)ユニックス |
| (株)ファーストテクノロジー | ユニバーサルフード(株) |
| (株)ファイネット | ユニリンク(株) |
| (株)ファインネット | ライトシステムコンサルタント(株) |
| フィールドシステムズ(株) | (株)リウコム |
| (株)フィンチジャパン | リックシステム(株) |
| (株)フォーサイト | (株)リテイルサイエンス |
| (株)福岡CSK | (株)リンネット |
| 福岡流通VAN | (株)ワイ・ディ・シー |
| 富士ゼロックス(株) | |

退会：支援会員（1社）(株)トレンズ

社名公開企業



本協議会では正会員、支援会員の協力を得るなどして、流通 BMS 導入済/予定企業を独自に把握し、それぞれの企業に社名開示の承認を得て公開しています。2015 年 1 月 5 日現在の状況は下記のとおりです。

小売業

業態	済	予定	小計
スーパー	118	12	130
百貨店	8	3	11
ドラッグストア	24	0	24
ホームセンター	4	0	4
生協事業連合	4	0	4
倉庫型会員制ストア	1	0	1
ボランティアチェーン本部	1	0	1
ディスカウントストア	2	0	2
合計	162	15	177

具体的な企業名は下記サイトをご覧ください。

www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/info06.html

卸売業・メーカー

業種	済	予定	小計
食品・飲料卸	57	0	57
菓子卸	21	4	25
日用品・化粧品 卸・メーカー	25	0	25
医薬品 卸・メーカー	6	2	8
アパレル・靴・スポーツ用品 卸・メーカー	29	8	37
食品メーカー	30	2	32
家庭用品 卸・メーカー	10	1	11
包材資材 卸・メーカー	14	8	22
玩具・ホビー 卸・メーカー	3	0	3
家電 卸・メーカー	2	0	2
その他 卸・メーカー	2	0	2
合計	199	25	224

(注 1) 上表の企業数は、社名公開企業の数であり、導入企業の数ではありません。

実際に流通 BMS を導入している、または導入を予定している企業数の一部です。

(注 2) 実際に流通 BMS を導入している卸・メーカーの企業数を調査した結果、8,000 社以上に導入されていると推測しております。(2014 年 12 月現在)

ロゴマーク使用許諾製品



本協議会では流通 BMS の標準仕様に準拠した製品やサービスに対して、流通 BMS のロゴマークの使用を許諾しています。

2015 年 1 月 22 日現在の状況は下記のとおりです。

許諾総数：93 製品・サービス

(提供企業数 48 社)

《93 製品・サービスの内訳》

- EDI (通信+XML) 製品：47
- サービス (ASP/SaaS)：36
- 通信基盤：4
- 認証サービス：3
- 物流ラベル作成ソフト：3

検索サービスの提供

上記の製品・サービスの詳細は下記サイトから検索することができます。

www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/detail.html



流通 BMS 協議会では、流通 BMS について学んでいただくための講座を定期的を開催しています。講座は、初心者を対象とした「入門」とシステムを構築する際の要点を解説した「導入」の 2 コースがあります。いずれも参加無料ですので、目的に合わせてご活用下さい。

流通 BMS 入門講座

対象者	これから流通業のシステムを担当する方、 流通 BMS の導入を検討しているユーザー企業の現場部門・システム部門の方、 上記ユーザー企業をサポートする SI 企業の方やコンサルタント等
開催時間	13：30～16：30（受付開始：13：00～）
プログラム	第 1 部：流通 EDI の基礎知識 第 2 部：流通 BMS の基礎知識 第 3 部：流通 BMS の利用方法
参加費	無料（各種ガイドブックは有料販売となります）

開催日

東京会場：2015 年 2 月 19 日（木）

流通 BMS 導入講座

対象者	流通業のシステムを担当する方 流通 BMS の導入を検討しているユーザー企業の現場部門・システム部門の方 上記ユーザー企業をサポートする SI 企業の方やコンサルタント等
開催時間	13：30～16：30（受付開始：13：00～）
プログラム	第 1 部：流通 BMS の最新状況 第 2 部：流通 BMS の導入について QA ： 質疑応答
参加費	無料（各種ガイドブックは有料販売となります）

開催日

東京会場：2015 年 2 月 6 日（金）

東京会場

（一財）流通システム開発センター 2 階会議室
東京都港区赤坂 7-3-37 プラス・カナダ

申し込み方法 ウェブサイト上のお申し込みフォームよりお申込みください。

入門講座 <http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/edi.html>

※入門講座で使用するテキストも上記サイトで公開しておりますので、事前にご覧ください。

導入講座 <http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/edi2.html>



流通システム開発センターが主催している EDI 以外の入門講座をご紹介します。

バーコード入門講座

第1部 JANコード・集合包装用商品コード・GTINの基礎	
13:30~15:00	① JANコード：コード体系、利用方法、JANシンボルなど ② 集合包装用商品コード：コード体系、利用方法、ITFシンボルなど ③ GTIN（Global Trade Item Number）とは ④ その他関連事項
第2部 今後期待される国際標準のバーコードなど	
15:10~16:30	① アプリケーション識別子（AI）：AIとは、AIの必要性・メリットなど ② GS1-128バーコード：GS1-128バーコードとは、シンボルの特徴など ③ GS1 データバー：GS1 データバーとは、シンボルの種類と特徴など ④ 電子タグとEPC：電子タグとは、電子タグの特徴、EPCとはなど

開催日・場所

- 東京会場：2015年2月10日（水）
3月13日（金）
3月26日（木）
流通システム開発センター2F 会議室
- 大阪会場：2015年2月25日（水）
大阪商工会議所
- 福岡会場：2015年2月6日（金）
福岡県中小企業振興センター
- 名古屋会場：2015年2月12日（木）
ウインクあいち所

申込み方法 ウェブサイト上のお申し込みフォームよりお申込みください。

<http://www.dsri.jp/semsal/seminar/barcode.htm>

電子タグ入門講座

プログラム

- | |
|--|
| (1)はじめに
(2)電子タグとは
(3)電子タグの活用シーンと導入事例
(4)電子タグシステムの導入に向けて
(5)EPCglobal 標準の紹介 |
|--|

開催日時・場所

東京会場
2015年2月27日（金）14:00~17:00
流通システム開発センター2F 会議室

申込み方法

ウェブサイト上のお申し込みフォームよりお申込みください。

http://www.dsri.jp/semsal/seminar/epc_seminar.htm



◇本号のトップ記事は、普及推進タスクチームの発足についてです。タスクチームでは、流通 BMS の裾野の拡がりに対応して「地方」と「中小」をキーワードに具体的な普及策の検討を始めました。

「地方」では、都道府県別の導入状況を詳細に把握して、どの地域でどのような活動をするのが効果的かを検討します。活動としてはセミナーの開催等が考えられますが、地域によって対象や内容を変えるなどの工夫が必要といった話をしています。

「中小」では、流通 BMS 導入のハードルを低く感じてもらうためのガイドと、流通 BMS の導入で何がかわるかがひと目で分かるパンフを作成することを目標にしています。

◇例年1月から3月にかけてセミナーが集中しますが、特に今年は小売業 10 社の事例紹介をすることになり、その折衝に忙しい思いをしました。

10 社とは JILS セミナー 2 社、普及推進セミナー 2 社×3 都市、リテールテックセミナー 2 社です。今年の特徴は、普及推進セミナーで GMS や食品スーパーだけでなく、ドラッグストアに登場してもらうことと、リテールテックセミナーでコストコや Olympic グループといった従来にない業態に登壇してもらうことです。多数のご来場をお待ちしております。

◇日本チェーンドラッグストア協会のブロック総会が3カ所で開催され、協議会事務局としては初

めて参加しました。協会としても外部から報告してもらうのは初めてだそうです。

本号の業界キーマンに登場いただいたエスエス製薬の友田執行役員もドラッグストア業界と関係が深いわけですが、総会のプレゼンでは、同氏も話しておられる「一企業の立場からではなく、業界全体を考えれば流通 BMS を推進していくべき」といったことを強調してきました。

◇1 月末に台湾の経済部の局長以下数名の方が流通 BMS について聞きたい、ということで来所されました。台湾とは3年ほど前から流通 BMS で行き来がありましたが、日本の経産省に相当する役所の局長クラスが見えるのは初めてです。

アジアの EDI 事情についてはこの3月に研究員 2 名が3カ国を回って調査し、帰国後にセミナー形式で報告する予定ですが、EDI が立ち遅れているのは台湾を含めてアジア各国とも似たような状況のようで、これから日本の EDI 標準化の経験が生かされるかもしれません。

◇最近良く聞く「恵方巻き」。関西が発祥のようですが、一般的に知られるようになったのは某大手 CVS が売り出した 1998 年以降とか。九州生まれの私などは最初「けいほうまきって何？」などと訊いておりました。今年は某百貨店が 1 万 2,960 円の豪華恵方巻きを売り出したとか。2 月の節分の行事食としてすっかり定着したようです。

(尚)

発行 : 2015 年 1 月 30 日
 発行人 : 流通システム標準普及推進協議会
 (流通 BMS 協議会)
 住所 : 〒107-0052
 東京都港区赤坂 7-3-37
 プラス・カナダ 3 階
 一般財団法人 流通システム開発センター内
 Tel : 03-5414-8505
 Fax : 03-5414-8513
 E-mail : ryutsu-bms@dsri.jp
 URL : www.dsri.jp/ryutsu-bms

